

貧困者の健康に生きる権利・健康に生きる義務 —大阪あいりん地区におけるDOTS事業を中心に—

先端総合学術研究科
イム・ドクヨン

あいりん地区とは

- ・大阪市の南部、西成区の東北端に位置している。**全国最大の「寄せ場」と呼ばれる日雇労働市場**があり、推定で21,000人が生活している。
- ・1990年代から長期にわたった景気の低迷、日雇労働者の高齢化等により**野宿生活を余儀なくされる人**が増加しはじめた。
- ・2000年代後半から**生活保護者が急増**。あいりん地区の行政区域である西成区では全体世帯の23.24%が生活保護の受給者である。



←あいりん総合センター



炊き出し(2012年冬)→

DOTS (Directly Observed Treatment Short-course) とは

- ・DOTSとは、患者が適切な容量の薬を服用するところを**医療従事者が目の前で確認**し、治癒するまでの経過を観察する治療方法である。
- ・「日本版DOTS」は、2004年12月に「結核患者に対するDOTS(直接服薬確認療法)の推進について」が発出され、2005年4月より施行された改正結核予防法より体系的に実施される。

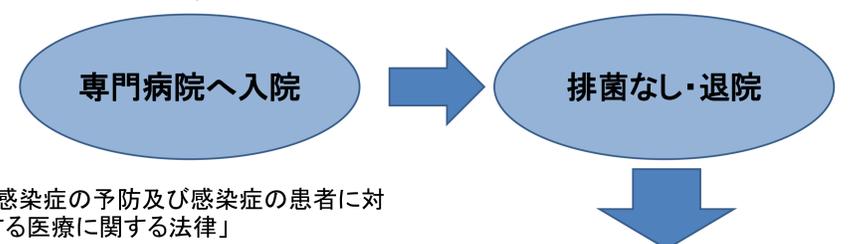
あいりん地区でのDOTS事業

- ・民間団体と社会保健センターなどの公的機関と協力しながら実行。



健診

- ・健診車における健診
- ・施設の入所者、特別清掃事業就労者の健診
- ・簡易宿泊所やサポーターハウスの管理人等と連携



「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」



つどい
(ピアサポーター)
生活保護など連携

- ・2012年12月から2013年8月まで、訪問型6-9人、拠点型12人-22人、つどい参加者は4人から11人。
- ・完治率は、非常に高い。

大阪における結核対策の変遷

- 【全国】
- ・全国の結核罹患率は、1980年代からの減少は鈍化傾向になったが、1990年後半から上昇に転じた。
 - ・国は、1999年7月26日に「結核緊急事態宣言」を発表。

- 【大阪】
- ・2001年に「**大阪市結核対策基本指針—STOP 結核作戦**」発表

大目標
10年間で大阪市の結核罹患率を半減させる
結核罹患率104.2→50以下

- ・2011年に「**大阪市結核対策基本指針—STOP 結核作戦**」発表

大目標
10年間で大阪市の結核罹患率を半減させる
結核罹患率: 49.6 → 25 以下

大阪あいりん地区における結核状況と対策の変遷

	2001年		2010年	
	新登録患者数	罹患率	新登録患者数	罹患率
全国	35,489人	27.9人	23,261人	18.2人
大阪市	2,155人	82.6人	1,265人	47.4人
西成区	556人	405.9人	291人	238.5人
あいりん地域	336人	1120.0人	155人	516.7人

罹患率: 1年間に発病した患者数を人口10万対率で表したものの。

全国の約2.4倍
全国の約13倍
全国の約28倍

- ・人口密度が高い。
- ・日雇労働者の出入りがあり(寄せ場がある)、人口流入が継続化している。
- ・ホームレスの状態、アルコール依存症、薬物依存症患者の複雑な問題を抱える場合が多い。
- ・栄養面の問題。
- ・あいりん地区の高齢化率が高い。

- ・大阪市は2012年に「**西成特区構想におけるあいりん地域を中心とした結核対策の拡充について**」発表、「結核対策チーム」を設置。

	平成21年 (2次指針基礎数値)	⇒	平成29年 (特区構想最終年)	←	平成32年 (2次指針最終年)
西成区 (内あいりん地域)	290人	⇒	145人以下	←	145人以下
	165人	⇒	80人以下	←	80人以下

前倒し

まとめ

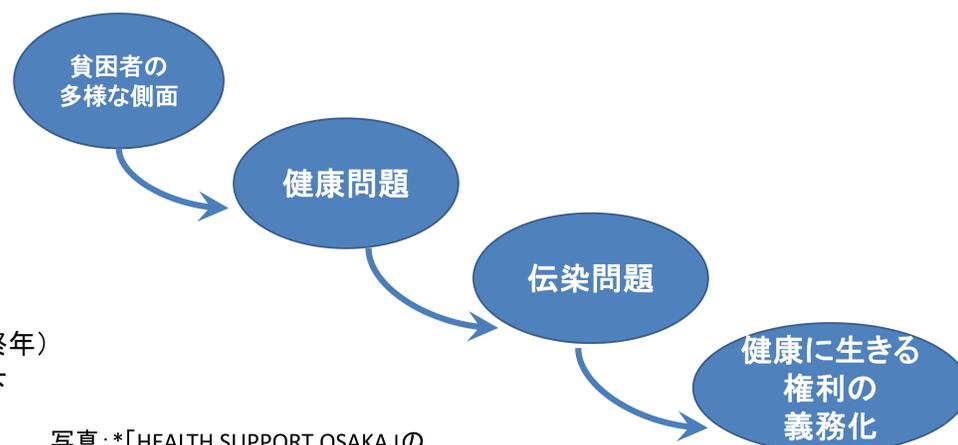


写真: *「HEALTH SUPPORT OSAKA」のホームページより。他は筆者が撮影。